

4. 閉塞性動脈硬化症における赤血球変形能および

血小板に対するイコサペント酸エチルの効果

(外科第二) 内村智生、川口 聡、東 理佐子、土田博光、石丸 新、古川欽一

イコサペント酸エチル(EPA-E)の閉塞性動脈硬化症(ASO)における抗血小板作用および微小循環改善効果について検討した。

ASO患者18名を対象とし、EPA-E8週間経口投与、血小板放出反応及び赤血球変形能の変化を観察した。赤血球変形能投与前 $65\mu\text{l}/\text{sec}$ 以下の症例では、投与前-4週間、投与前-8週間において、 $p < 0.05$ の有意な上昇が見られた。EPA/AA比は、4週後、8週後において、それぞれ前値との間に($p < 0.05$, $p < 0.01$)の有意な上昇を認めたと、抗血小板効果は明瞭ではなかった。以上の観察の結果、EPA-Eの血小板抑制効果は明らかでないが、微小循環改善に対し有効な薬剤と考えられる。

5. 重症血友病A患者のⅧ因子遺伝子内における逆位の解析

(臨床病理) 賀来雅弘、萩原 剛、稲葉 浩、福武勝幸

重症血友病Aの約半数では遺伝子異常が不明であったが、Ⅷ因子遺伝子内の逆位が原因であろうという報告がなされた。今回日本人血友病Aにおける逆位の解析を行った。まずエクソン22と23間のRT-PCRを行い増幅産物が得られず逆位の存在が疑われた患者については、サザン・ハイブリダイゼーション法により解析を行った。その結果3種類のパターンが得られた。正常パターン以外の2つのパターンは、イントロン22に存在するF8Aとその約500kb上流に存在する2コピーのF8Aのうちのどちらか1つで生ずる逆位であり、遠位側のF8Aとの逆位をDistalタイプ、近位側のF8Aとの逆位をProximalタイプとした。42例の重症血友病Aのうち15例(36%)で逆位が見られ、そのうち14例はDistalタイプ、1例はProximalタイプであった。バンドのパターン及びその出現頻度は欧米人とほぼ同様の結果であった。

6. 最近経験したHELLP症候群の4症例

(産婦人科) 舟山 仁、中嶋章子、井坂恵一、飯塚聖子、柳下正人、高田淳子、ジョシー・バラル、藤東淳也、中村 浩、高山雅臣

最近3年間にHELLP症候群を4例経験した。発生率は全分娩数の約0.2%であった。3例は分娩前の発症、1例は分娩後の発症であり全例妊娠中毒症を伴っていた。母体合併症として、子癇2例、常位胎盤早期剝離1例、急性腎不全1例、腹水1例を経験した。今回、重篤な合併症を併発したにもかかわらず、母児共に予後良好であったが、発症が34週~40週と遅く児が成熟していたこと、また早期に帝切を行い、すみやかにATⅢなどの投与を開始したためと考えられる。診断には通常Sibaiの基準が用いられるが、今回は分娩前に全ての条件を満たした症例はなく、帝切後に各検査値の悪化をみた。急性腎不全を合併した1例はGOT1573IU/l・GPT1620IU/lと上昇が著しく、長江らが報告したグルカゴン-インスリン療法を行い検査値の改善を得た。本療法は本症の重症例に対して、試みるべき治療法の一つと考える。